

下水道工事での事故を踏まえた公共工事の安全対策検討委員会

(第2回)

開催結果概要

議事概要

東京都、神奈川県及び横浜市から、各都市における安全管理の取組について説明が行われたのち、市による公共工事の安全対策骨子案の説明を踏まえ、意見交換が行われた。

今後の安全対策の検討に向けて、主に以下の意見が出された。

- 下水道工事では、わずかな雨でも危険な状況に陥ることがあるということがポイント。それに対する意識や考え方を書き込む必要がある。
- ゲリラ豪雨だからすぐやむとは限らないため、降雨があり次第、速やかに管きよ内から退避することが重要。
- 様々な民間気象会社が、気象情報に応じたプッシュ型通知など情報提供サービスを実施しており、次回の委員会において、話を聞けるとよい。
- 民間気象会社であれば特定のポイントを設定して気象情報を受け取ることが可能。降雨基準により通知するサービスもあるので、具体的な話を伺いたい。
- 横浜市のように、雨が降ったらまず工事を一度中断し、改めて気象状況を確認することができれば良いのではないか。
- 安全意識について、気象の知識の有無というより、知識をリスク管理にどう生かすかという点が重要。

- 事故を風化させないためといった各対策の目的意識を報告書に盛り込む方が良い。
- スイスチーズモデルのような考え（事故発生は、事故防止対策の抜け穴（漏れ・エラー）が重なったときに生じる）に基づき、複層的な防護壁（安全対策）をつくっておくべきである。

- 今回の自治体の発表を踏まえ、現場の下流側に避難口を設けることも考えられる。
- 今回は緊急輸送路下に整備された雨水排水を目的とする下水管の耐震化工事であり、地震対策の一環として、今回と同様の工事が近年各地で行われている。このような現場は、上部の道路の交通量が多い、管きよが深い、人孔間の距離が長いという傾向があり、現場状況を踏まえてより念入りに避難計画を検討することが求められる。
- 降雨時、管きよ内が増水することに備えて救助用ロープを配備することは、緊急時の対策として有効である。
- 増水する前に大雨の予兆を的確に捉え、迅速に管きよ内から退避することが重要である。

- 皆でリスク情報の共有を行うことに加え、何より危機意識を持つことが非常に重要。そのために安全教育というものがあるが、教育を受ける作業従事者が、自分事として捉えやすくするためには、事故事例の共有を図ることが有効。

など